

# 景況レポート

(3月分・情報連絡員80名)

## 県内景況は低調に推移

～一部業界に持ち直しの動き～

【概況】3月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが12.5%（前月調査11.4%）、「悪化」が42.5%（同41.8%）で、業界全体のDI値は-30.0となり、前月調査と比較して0.4ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-21.8で前月調査（-21.9）と比較して0.1ポイント上回った。また、非製造業全体のDI値は-35.5で前月調査（-36.2）と比較して0.7ポイント上回った。

3月は、降雪や低温によって、商店街やスーパーの客足が鈍り、売上が伸びなかった。また、建設関係でも現場の作業や、資材等の運搬等に影響を受けた。

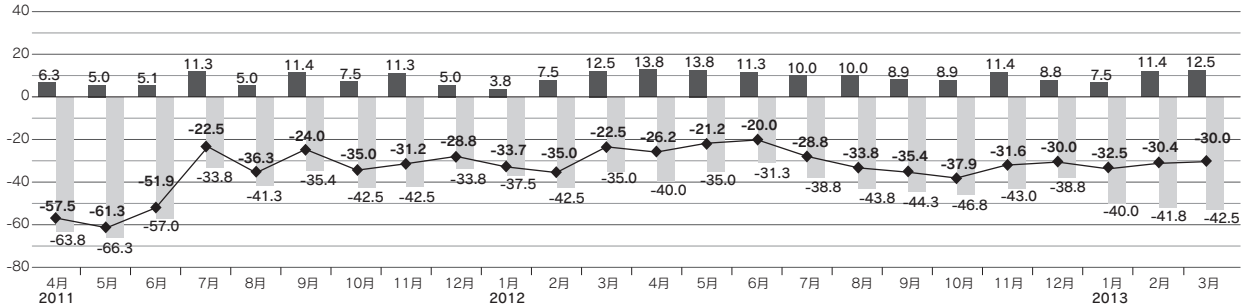
木材・木製品製造業では、復興需要や春需要、円安による輸入材の価格上昇が国産材の需要を押し上げたこと等が好転材料となっている。全体として景況は低調に推移しており、燃料や原材料の価格上昇が不安材料となっている。（回答数：80名 回答率：100%）

| 項目   | 業界の景況 | 売上高 | 販売価格 | 取引条件 | 資金繰り | 雇用人員 |
|------|-------|-----|------|------|------|------|
| 製造業  |       |     |      |      |      |      |
| 非製造業 |       |     |      |      |      |      |

【凡例】  
 快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 曇り 10以上 10未満  
 雨 30以上 30未満  
 雷雨 30以上 30未満  
 【天気図の見方】  
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index（ティフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合〔前年同月比〕



### 業界の声

|       |  |
|-------|--|
| 麺類製造  | 低価格化に歯止めがかからず、生産コストも上昇している。  |
| 繊維製品  | <ul style="list-style-type: none"> <li>春物について追加発注があるなど、春物、夏物生産は好調を維持している。</li> <li>円安による材料費の値上げが懸念される。数量の多い定番商品の注文が増えてきており、工場の操業度が上昇しているように感じる。</li> </ul>   |
| 一般製材  | <ul style="list-style-type: none"> <li>製材品は春需要向けに動きが出てきた。また、円安により国産材の価格競争力が増している。</li> <li>国産針葉樹合板メーカーの出荷量は生産量を上回っており、流通在庫量が減少している。</li> <li>円安が進み、国産材に対する状況が少し好転しそうな感じが窺える。輸入材の入手が難しく、代替品として国産材の需要が増加傾向になってきている。</li> </ul> |
| プレカット | 個人住宅の出足が好調で、件数、金額とも前年を大幅に上回り、フル稼働が必要な状況。復興特需、消費税増税前の駆け込み需要に対応すべく、3月より工場人員を1名増加した。  |
| 自動車販売 | 3月の新車販売台数は、登録自動車4,053台（前年同月比83.8%）、軽自動車3,262台（同92.4%）で、合計7,315台（同87.4%）と4ヵ月連続で前年割れとなっているが、エコカー補助金終了後、メーカーが新型車を投入したこと等により、落ち込みは最小限に食い止められている。   |
| 石油販売  | ガソリンは1ℓあたり156円10銭で前月比2円80銭の上昇、軽油1ℓあたり137円40銭で前月比3円40銭の上昇、配達灯油は18ℓで1,846円と前月比25円の低下となった。ガソリン、軽油は、前月比では上昇となっているが、依然として値下げ基調が見られ苦戦している。また、灯油もピーク時を越えたため、値下げ基調となっている。  |
| 商店街   | 雪の影響もあり、全体的に客足が悪く売上は前年比マイナスで推移した。（秋田市）   |
| 旅行    | 国内97%、海外80%と低調に推移した。県内では、景気回復がまだ感じられず、法人による団体旅行の動きが鈍い。   |
| 管工事   | 豪雪の影響により受注工事が経費増となり、厳しい状況が続いている。   |